

令和7年度 事業報告

令和7年度の各事業について、6課の取組に沿って報告します。
その中で、公益事業区分及び収益事業区分については付記をしています。

1 総務課 「経営基盤の強化」

地域に開かれた組織体制を確立するとともに、民間団体としての主体的な経営判断を行い、公共性と民間性を併せ持った、地域福祉を進める中核的な社会福祉法人として、地域住民から信頼される組織経営に取り組んだ。また中期経営計画（第3次発展・強化計画、令和8年度から令和12年度）を策定した。

(1) 人事・労務管理

① 人事・労務管理の整備

ア 組織・人事体制の整備

組織の充実強化を図るため、正規職員採用試験を実施、手話通訳士1人を採用した。

イ 健康診断と予防接種の継続実施

全職員の定期健康診断及びインフルエンザ予防接種を実施した。

ウ 労務管理の整備

労働時間の適正管理を目的に勤怠管理システムを適正に運用することができた。

② 人材育成の推進

ア キャリアパスの運用

正規職員がキャリアパスを基に業績目標を設定し、面談を通じた進捗管理を実施した。

イ 人事評価の実施

正規職員を対象に人事評価（業績評価）を実施し、発展強化計画（現、中期経営計画）の組織目標を職員が主体的に実施できる体制を構築した。またキャリアパスの職位に応じた基準をもとに勤務成績評価を実施した。

③ 各種職員研修の実施

職場内研修として相談援助面接技術研修、管理職員研修、職場外研修を利用してキャリアパス対応生涯研修（中堅職員コース、チームリーダーコース）、会計実務研修を実施した。また、新規採用職員のフォローアップ研修を実施した。

④ 職場環境の整備

ア 衛生委員会の開催

衛生委員会を毎月開催し、職員の健康状況を確認するとともに時間外勤務（特別条項）対象者及び体調不良者の状況を報告、確認した。また職員の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策について産業医の助言を受けて協議した。

イ メンタルヘルス等の相談窓口の設置

職員を対象としたメンタルヘルス等の相談窓口を設置し、随時職員からの相談に応じて対策を実施した。

ウ ストレスチェックの実施

ストレスチェックを実施し、課ごとの集団分析結果を職場環境改善の基礎資料とした。また高ストレス者への対応を実施した。

エ ハラスメント対策の実施

カスタマー・ハラスメント対策の要綱を整備した。ハラスメントに関する研修を実施するとともに全職員を対象にアンケートを実施し、職場環境を改善した。

(2) 財務管理

① 財源の確保と有効活用

ア 基金・積立金の状況

(ア) 基本財産 (円)

前年度末現在高	決算年度中増高	決算年度中減高	決算年度末現在高
8,200,000	2,094	2,094	8,200,000

※利息収入2,094円は財源充当せず、次年度に繰り越した。

(イ) 前橋市社会福祉協議会積立金 (円)

前年度末現在高	決算年度中増高	決算年度中減高	決算年度末現在高
280,453,605		318,729	280,134,876

※決済用普通預金

※318,729円を企業貢献関連事業に充当した。

(ウ) 介護保険事業積立金 (円)

前年度末現在高	決算年度中増高	決算年度中減高	決算年度末現在高
225,472,737	0	5,844,656	219,628,081

※決済用普通預金

※事業運営の運転資金と早期退職者の退職給付金の不足額を取り崩した。

なお、退職給付金については、人事院勧告に伴う退職手当の再計算により不足額が増額となったことから、令和8年度の運営調整の前倒し分として244,656円を取り崩した。

イ 会員制度

加入促進に向け、会員制度の広報活動を実施した。

(会員数)

一般会員 127,965 世帯、賛助会員 1,287 人 84 団体

ウ 自動販売機設置等事業 *収益事業区分

(ア) 飲料自動販売機の設置による手数料収入事業

市有施設に飲料自動販売機を設置し、13台分の手数料総額1,009,228円の収入を得た。

(イ) 公衆電話の設置による手数料収入事業 *収益事業区分

おおとも老人福祉センターに公衆電話を設置し、1台分の手数料総額210円の収入を得た。

エ 弁当飲料等取次事業 *収益事業区分

弁当、菓子及び飲料の注文を取次ぎ、2社(登利平、伊藤園)からの手数料総額536,247円(内部取引除く)の収入を得た。

オ 広告掲載事業 *収益事業区分

ホームページのトップページにバナー広告欄を設け、5件の広告料総額180,000円の収入を得た。

② 財務規律の強化

補助金の支給方式を市と協議し決算に基づく精算方式に変更した。また予算に基づく適正な支出、会計処理を徹底し、あわせて契約行為を適正に実施した。

(3) 法人経営・組織管理

① 信頼されるための適正な組織経営

ア 理事会、評議員会の開催及び監査の実施

定期的に理事会、評議員会を開催し、組織運営のための審議、重要事項の報告を実施した。また内部監査として監事による会計監査を実施し、法人運営の適正性を確保した。

(理事会開催状況)

期 日	議案、報告件数	場 所	出席者
6月 6日	議案第 1号～12号 報告第 1号～3号	K' BIX まえばし福祉 会館第5会議室	理事 7人 監事 2人
6月 25日	議案第 13号～14号	書面決議	理事 14人 監事 2人
8月 1日	議案第 15号～16号	書面決議	理事 14人 監事 2人 うち議案第 15号については理事 1人が利害関係者であった
10月 17日	議案第 13号～17号 報告第 4号	K' BIX まえばし福祉 会館第5会議室	理事 8人 監事 2人
2月 2日	議案第 18号～19号	書面決議	理事 13人 監事 2人
3月 10日	議案第 20号～38号 報告第 5号～ 8号	K' BIX まえばし福祉 会館第5会議室	理事 8人 監事 1人

※10月17日以降の議案番号に誤りがあった。

(評議員会開催状況)

期 日	議案、報告件数	場 所	出席者
6月25日	議案第 1号～ 6号 報告第 1号	K' BIX まえばし福祉 会館第1, 2会議室	評議員 21人
8月29日	議案第 7号	市障害者サポート センターこころ 会議室	評議員 18人
10月27日	議案第 8号～ 9号	K' BIX まえばし福祉 会館社会適応訓練 室	評議員 21人 (うちオンライン1人)
3月 2日	議案第10号	書面決議	評議員 21人
3月24日	議案第11号～17号	K' BIX まえばし福祉 会館社会適応訓練 室	評議員 20人

(監査実施状況)

期 日	内容	場 所	出席者
5月13日	会計監査	K' BIX まえばし福祉 会館第5会議室	監事 2人

イ コンプライアンスの徹底とリスク管理強化

コンプライアンスの徹底を図るために4か月に1回、自己点検チェックを実施し、法令遵守およびリスク管理に対する職員の意識向上を図った。

② 危機管理体制の整備

ア 事業継続計画（BCP）の随時見直し

次年度に実施することとした。または次年度に向けた課題として整理した

イ 安否確認システムによる訓練実施

安否確認システムを用いた訓練を4回実施した。

③ 広報啓発活動の充実

ア ホームページの充実

情報発信内容を更新し、利用者にとってわかりやすい構成となるように改善した。

イ 社協だより「こんにちは前橋市社協」の発行

日頃の本会の活動状況などを多くの市民に知っていただくことを目的として、機関紙「こんにちは前橋市社協」を発行した。8月、11月、3月の3回、1回に約150,000部を印刷し市内の全戸に配布した。

本会の事業や施設の紹介、地域での福祉活動など分かりやすい紙面づくりのために職員アンケートを実施し改善した。

ウ SNSを活用した情報発信

フェイスブック、インスタグラムを随時更新、投稿を行い、最新の情報をリアルタイムで発信した。

エ 前橋市社会福祉大会の開催

社会福祉のさらなる展開を図り、社会福祉関係者との緊密な連携を図るとともに、多年にわたり社会福祉事業の発展に功績のあった方々を表彰し、感謝の意を表することを目的に、第23回前橋市社会福祉大会を開催した。

- ・期 日 令和7年11月29日（土）
- ・場 所 K' BIX まえばし福社会館 多目的ホール他
- ・参加者数 400人
- ・開催内容

表彰式（表彰状・感謝状の贈呈数）

表彰種別	表彰名	団体	個人
前橋市長表彰	民生児童委員功労者		36
	特別功労者		3
	その他特別功労者	1	0
	前橋市長表彰 計	1	39
前橋市社会福祉協議会長表彰	民生児童委員功労者		85
	保護司功労者		6
	社会福祉法人及び社会福祉団体役職員功労者		53
	地域福祉・ボランティア活動功労者	14	29
	前橋市社会福祉協議会長表彰 計	14	173
前橋市社会福祉協議会長感謝	会長感謝状	18	6

認知症アンバサダーによるトーク&ライブ

子ども服のリユース

近距離モビリティの試乗体験

福祉車両、福祉用具展示

防災グッズの展示・体験・カタログ配布

リズムジャンプ体験、ピンシャン元気体操

ふくしなんでも相談

福祉活動紹介パネル展示（町社協の取り組み、ボランティア団体紹介）

④ その他

ア 前橋市社会福祉法人連絡会の活動支援

市内の社会福祉法人が相互に連携し、情報交換や研修を通じた資質向上や地域公益事業に取り組むための場となる社会福祉法人連絡会の事務局として運営支援を実施した。

令和7年度の会員は40法人で、各社会福祉法人と地域（町内等）との関係構築及び福祉避難所の開設・運営訓練や福祉施設を活用した福祉学習に取り組んだ。

イ 社会福祉関係実習生の受入れ

社会福祉関係の学校等から実習生を受け入れ、将来の地域福祉を担う学生等に対し、

社会福祉協議会の業務について実習指導を実施した。

実習の種類	受け入れ日数(日)	受け入れ人数(人)
社会福祉相談援助実習	69	3

2 地域福祉課

「ともに生きる豊かな地域社会の実現」

地域共生社会の実現に向けて、令和元年度に中間見直しを実施した。第2次地域福祉活動計画（後期計画）に基づき、住民が主体となって地域課題を把握し、解決していくための体制づくりを推進した。

また、地域共生社会の実現に向けてボランティア活動や市民活動のコーディネートを促進し、学校、地域、企業を対象とした福祉教育を実施した。加えて、生活課題を気軽に相談でき、必要なサービスが受けられるように相談支援体制を整備した。

(1) 生活支援体制の整備

① 地域福祉活動への支援（地区担当者による地区別行動記録）

（件）

	地域団体						関係機関・多様な主体						活動（事業）				内容										
	自治会	地区社協	民児協	地域団体	サポーター	介護予防	その他	市	包括	企業	人・NPO等	社・福祉	学校等	その他	サロン	見守り	町社協	その他	会議	せ打ち	打ち	研修会	行事等参加	イベント・	成・補助	資・料	個別
敷島	10	104	38	0	1	2	11	4	9	28	21	2	30	4	11	0	25	45	1	39	48	1	78				
岩神	15	22	29	0	3	6	2	3	8	5	8	0	18	4	50	6	22	18	1	17	28	0	73				
若宮	7	41	25	1	0	7	0	4	0	0	5	4	5	5	0	3	22	16	3	1	35	7	27				
城東	4	15	38	8	2	0	6	7	0	0	0	1	6	0	2	0	29	14	1	4	16	5	3				
中部	2	67	24	3	6	11	1	7	2	12	20	7	7	0	12	11	33	55	9	9	46	1	15				
中川	19	30	19	12	2	1	6	7	0	0	1	6	8	0	6	1	35	27	4	9	10	5	0				
文京	12	36	20	1	1	4	1	1	1	0	0	0	2	3	5	2	29	23	3	6	20	0	6				
南部	3	38	33	5	0	2	1	2	2	1	0	1	4	0	11	0	29	46	3	3	13	0	10				
上川淵	14	46	18	2	3	7	4	8	4	1	4	7	58	0	22	13	53	26	4	66	131	4	18				
下川淵	5	44	27	0	10	8	3	3	3	3	3	7	41	3	22	13	51	30	15	66	149	2	11				
芳賀	5	10	21	0	2	4	4	3	0	0	0	0	22	0	8	4	16	15	3	13	12	0	7				
桂萱	3	30	14	5	1	0	0	8	3	2	0	7	60	2	33	12	34	10	5	28	37	0	47				
東	23	95	31	1	21	11	9	13	39	3	6	13	20	0	101	13	64	99	17	34	133	7	18				
元総社	113	63	26	0	0	7	43	41	29	0	8	80	14	0	69	8	38	112	12	16	164	1	90				
総社	10	120	63	6	5	7	39	6	4	14	41	15	4	0	97	2	31	152	8	15	64	11	128				
南橋	3	56	19	9	1	15	0	6	0	0	0	11	16	2	47	14	38	41	2	18	65	8	24				
清里	7	20	32	0	0	1	49	26	25	0	1	69	9	0	4	8	31	59	12	7	82	0	38				
永明	15	88	73	10	1	6	23	29	15	26	0	13	6	0	86	10	29	95	6	20	93	40	135				
城南	3	65	29	25	5	1	4	9	2	1	4	5	6	0	41	10	50	16	9	6	55	6	56				
大胡	38	135	39	6	2	2	0	5	0	0	0	17	73	0	5	23	38	16	1	28	131	1	60				
宮城	20	42	16	10	1	6	1	4	0	9	2	0	21	0	55	2	29	34	1	20	26	29	13				
粕川	3	76	40	10	23	1	3	2	1	2	1	4	15	0	40	12	25	13	8	6	64	1	98				
富士見	53	103	20	10	0	1	1	12	1	0	10	8	35	0	21	3	24	44	2	40	23	4	35				
合計	387	1,346	694	124	90	110	211	210	148	107	135	277	480	23	748	170	775	1,006	130	471	1,445	133	990				

② 生活支援体制整備事業の推進

地域の福祉課題の解決に向け、行政・地域包括支援センター・包括ブランチ等の関係団体と連携し、地域ニーズや社会資源の分析や住民が取り組む「交流・見守り・支え合い」活動の推進を支援した。

ア 生活支援コーディネーターの配置（地区担当者）

(ア) 第1層チーフ生活支援コーディネーター 1人

(イ) 第2層生活支援コーディネーター 12人

イ 協議体の設置、運営への協力

(ア) 市全域

第1層協議体である生活支援体制検討会議については、次年度の開催に向けて、合同事務局である長寿包括ケア課と協議し改めて役割と機能を見直すこととした。

(イ) 地区単位

市内23地区の地区社協の役員を中心に第2層協議体を運営した。企画運営会議を開催し、県外協議体の視察や支え合い活動をテーマとした研修会を実施した。また、各町における活動状況を共有するための情報交換会を開催するなど、町社協組織の必要性を深める取り組みを実施した。

(ウ) 町単位

市内284の町に対して「町社協」の設置及び活動への支援とともに町単位におけるサロンや見守り活動の支援を実施した。

ウ まえばし地域共生フォーラムの開催

地域活動における担い手不足が深刻な課題となっている中、これまでの「協働」をさらに発展させ、主体の垣根を越えて新たな価値を生み出す「共創」へと踏み出すことを目的に「まえばし地域共生フォーラム2026」を開催した。自治会役員、民生委員など地区社協や町社協に関わる市民約300人が参加した。

日時 令和8年3月14日（土）13:00～15:30

会場 K' BIX まえばし福祉会館2階 多目的ホール

テーマ 「協働から共創へ～多様な主体とつくる、まえばしの未来～」

基調講演・コーディネーター

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 事務長 中越 信一 氏
(パネリスト)

北部地区民児協 主任児童委員 林 裕子 氏

前橋地域リハビリテーション広域支援センター 理学療法士 牧 雄介 氏

NPO法人「共に暮らす」 代表理事 アジズ・アフメッド 氏

株式会社ヘルシーミルク 代表取締役 富澤 雄二 氏

エ 地縁団体以外との連携事業

No	連携先	地区	内容
1	群馬ヤクルト販売株式会社	市全域	健康教室、ポールウォーキング体験、イベント協力

		南部・東	民生委員児童委員と連携した見守り活動への協力
2	群馬ダイハツ自動車株式会社	市全域	送迎支援活動者安全運転講習会の開催、イベント協力
		岩神	クラウドファンディングへの協力
3	株式会社ザスパ	市全域	ホームゲームでのブース提供
		敷島	試合観戦&ウォーミングアップ見学ツアー
4	合同会社 BIONEER/ DANCE STUDIO TRIGER	市全域	手をつなぐ育成会作品展 スタートアップフェスタでの協力
5	株式会社明治 群馬オフィス	市全域	健康教室
6	アラキ珈琲	市全域	イベント協力
		清里	ちびっこ なつまつりへの協力
7	スターバックス コーヒー 敷島公園店	岩神	コミュニティカフェ、ラジオ体操、こどもお仕事体験会、だんべえ踊り、手話カフェ
8	スターバックス コーヒー 前橋元総社店	元総社	コミュニティカフェ体験会、元総社町 10 区コミュニティカフェ
9	スターバックス コーヒー パワーモール前橋みなみ店	下川淵	ふれあい・いきいきサロンへ参加
10	株式会社ベイシア	岩神	クラウドファンディング広報への協力
11	有限会社タキザワ	岩神	クラウドファンディングへの協力
12	株式会社フレッセイ 元総社蒼海店	元総社	店内イートインスペースを活用した居場所づくり
13	有限会社坂本清掃社	宮城	お助け隊への協力（ゴミ・草木処理）

オ 協定締結事業者との連携

地域福祉の推進と地域共生社会の実現に寄与することを目的とする連携協定を締結した2社との協働を進めた。

(ア)群馬ヤクルト販売株式会社（令和6年11月14日締結）

ふれあい・いきいきサロンでの健康教室やポールウォーキングの開催など健康づくりの推進等について協働した。

(イ)群馬ダイハツ自動車株式会社（令和7年2月25日締結）

安全運転講習会の実施、店舗活用した地域の交流・居場所づくりへの支援や地域福祉活動の推進について継続協議した。

③ 町社協設立及び活動への支援

町ごとに「関係者の横のつながりの強化」、「支え合い活動の継続」、「住民主体の地域福祉活動への参加促進」を目的とした「町社協」の設置を推進した。その結果、市内129の町社協が設立し、交流の場の開設、見守り対象者の拡大など新たな取り組みが開始された。

また、企業や社会福祉法人、NPO 法人との連携、協働による新たな支え合い活動が創出された。

(町社協活動実施状況)

地区	町社協名	自治会	町社協名	自治会	設置数
岩神	岩神町一丁目社会福祉協議会	岩神町一丁目	岩神町四丁目町社協	岩神町四丁目	3
	岩二社会福祉協議会	岩神町二丁目			
敷島	昭和町一丁目社会福祉協議会	昭和町一丁目	平和町二丁目社会福祉協議会	平和町二丁目	2
城東	日吉町二丁目町社協	日吉町二丁目			1
中部	大手町一丁目町社協	大手町一丁目	表町二丁目町社協	表町二丁目	3
	南町一丁目社会福祉協議会	南町一丁目			
中川	三河町一丁目社会福祉協議会	三河町一丁目	三河町二丁目社会福祉協議会	三河町二丁目	3
	朝日町四丁目あさひ会	朝日町四丁目			
文京	文京町一丁目自主防災地域福祉会	文京町一丁目	天川原町一丁目社会福祉協議会	天川原町一丁目	4
	文京町二丁目社会福祉協議会	文京町二丁目	第一天川町社会福祉協議会	第一天川町	
南部	南町二丁目自治会福祉部	南町二丁目	六供町社協	六供町	5
	南町三丁目ふれあいネットワークの会	南町三丁目	生川町社協支え合いの会	六供町生川	
	南四町社協	南町四丁目			
上川淵	上佐鳥町社協	上佐鳥町	あしたへ	広瀬第一団地	6
	西善町矢田社会福祉協議会	西善町矢田	中内町社会福祉協議会	中内町	
	東善町自治会社協委員会	東善町	山一社協会	山王町一丁目	
下川淵	亀里町寺家ふれあいサロン	亀里町寺家	鶴光路町支えあいの会	鶴光路町	5
	新堀町社会福祉協議会	新堀町	力丸町支えあいの会	力丸町	
	下川町ささえあいの会	下川町			
芳賀	鳥取町社会福祉協議会	鳥取町	高花台一丁目社会福祉協議会	高花台一丁目	3
	小坂子町社会福祉協議会	小坂子町			
桂萱	上沖町社協	上沖町	まちの応援隊	堀之下町	6
	西片貝町社協	西片貝町	江木団地自治会サロン見守り	江木団地	
	東片貝町社協	東片貝町	かやのいきいきサロン	萱野団地	
東	前箱田町社協	前箱田町	下新田町東陽町社協	下新田町東陽	9
	川曲町社協ちよつとしたお助け隊	川曲町	光が丘町社協	光が丘町	
	稲荷新田町町社協	稲荷新田町	青葉町社会福祉協議会	青葉町	
	町社協 チーム大利根	大利根町	上新田町社協	上新田町	
	古市町社会福祉協議会	古市町			
元総社	元総社一区町社協	元総社町第一	中石倉町社会福祉協議会	石倉町中部	8
	大友町社会福祉協議会	大友町	前橋市元総社10区社会福祉協議会	元総社町10区	
	石倉町上石倉社会福祉協議会	石倉町上石倉	鳥羽町西部社会福祉協議会	鳥羽町西部	
	元総社町第二社会福祉協議会	元総社町第二	元総社町第三区社会福祉協議会	元総社町第三	
総社	鍛冶町社会福祉協議会	総社町鍛冶町	総社町立石見守り会議	総社町立石	11
	栗島ふれあい福祉ネット	総社町栗島	桜が丘町社協	総社町桜が丘	
	総社町山王見守りネットワーク	総社町山王	総社町植野社会福祉協議会	総社町植野	
	新田まちむすび	総社町新田	サロン do おおわたり	総社町大渡	
	巢鳥町社協ひだまり	総社町巢鳥	総社町高井社会福祉協議会	総社町高井	
	総社町城川社会福祉協議会	総社町城川			
南橋	前橋市下細井町社会福祉協議会	下細井町	龍蔵寺町社協	龍蔵寺町	7
	北代田町社会福祉協議会	北代田町	関根町社協	関根町	
	前橋市下小出町社会福祉協議会	下小出町	田口町社協	田口町	
	上小出町社協	上小出町			
永明	本町福祉のまちづくり協議会	天川大島町本町	下長磯町社会福祉協議会	下長磯町	12
	天川大島町原町社会福祉協議会	天川大島町原町	女屋町社会福祉協議会	女屋町	

	住宅自治会社会福祉協議会	天川大島町住宅	東上野町社会福祉協議会	東上野町	
	野中町社会福祉協議会	野中町	下大島町西団地町社協	下大島町西団地	
	上長磯町社会福祉協議会	上長磯町	下増田町社会福祉協議会	下増田町	
	小島田町社会福祉協議会	小島田町	駒形町社会福祉協議会	駒形町	
城南	下大屋町ふれあいネットワーク	下大屋町	二之宮町社会福祉協議会	二之宮町	11
	泉沢町社協	泉沢町	筑井町社会福祉協議会	筑井町	
	富田町社会福祉協議会	富田町	小屋原町社会福祉協議会	小屋原町	
	荒子町社協	荒子町	上増田町社協	上増田町	
	西大室町社協	西大室町	鶴が谷町社協	鶴が谷町	
	今井町社協	今井町			
大胡	大胡町社協	大胡町	東金丸町社会福祉協議会	東金丸町	7
	茂木町社会福祉協議会	茂木町	河原浜町社会福祉協議会	河原浜町	
	堀越町社会福祉協議会	堀越町	上大屋町社会福祉協議会	上大屋町	
	堀越町堀下・町社協	堀越町堀下			
宮城	鼻毛石町おたすけ隊	鼻毛石町	苗ヶ島町おたすけ隊	苗ヶ島町	7
	市之関町おたすけ隊	市之関町	馬場町おたすけ隊	馬場町	
	柏倉町おたすけ隊	柏倉町	大前田町おたすけ隊	大前田町	
	三夜沢町おたすけ隊	三夜沢町			
粕川	粕川町月田区社会福祉協議会	粕川町月田区	粕川町深津区社会福祉協議会	粕川町深津区	8
	粕川町稲里区社会福祉協議会	粕川町稲里区	粕川町女淵区町社協	粕川町女淵区	
	粕川町新屋区社協	粕川町新屋区	田面区町社協	粕川町田面区	
	粕川町込皆戸社会福祉協議会	粕川町込皆戸区	粕川町膳区社会福祉協議会	粕川町膳区	
富士見	富士見町原上社協	原上	富士見町中島社会福祉協議会	中島	8
	原西支え合いの輪	原西	石井二区町社会福祉協議会	石井二区	
	富士見町時東社会福祉協議会	時東	西大河原ふるさとサポーターズ	西大河原	
	横室まち社協	横室	小沢ふれあい町社協	小沢	
合 計					129

ア 町社協活動情報交換会の開催

町社協の活動を推進するため、町社協の関係者等が参加する活動情報交換会を開催した。15町の町社協の活動者が3日間に分かれて活動発表を行い、参加者と情報交換を実施した。延べ280人が参加した。

また、活動情報交換会で作成した15町の活動紹介パネルを市役所ロビーに展示し、来庁者に向けた情報発信を実施した。

期 日	発 表 町 社 協	発 表 テ ー マ
10月20日 (第1回)	平和町二丁目	当たり前の暮らしが続けられる地域を！ 支え合い活動「あしすとの輪」
	鶴光路町	鶴光路町発！ 我が家の地域包括ケアシステム
	大友町	中学生ボランティア始動！
	粕川町膳区	サロン・見守り経験ゼロからのスタート 膳から犠牲者を出さない防災活動
	富士見町原西	地域住民の居場所作り！ こどもからお年寄りまで誰でも公民館

期 日	発 表 町 社 協	発 表 テ ー マ
10月29日 (第2回)	昭和町一丁目	メーリングリストを活用した助け合いシステム
	大利根町	「繋がる」「支え合う」大規模団地 町社協ホームページ作成
	総社町桜が丘	リーフレットとマグネットで地域を「つなぐ」！ つなぐ委員が広げる支え合い活動
	東片貝町	いーすと×いいひと 楽しいまちづくり
	富田町	いきいきサロンから広がる、繋がり支え合う町

期 日	発 表 町 社 協	発 表 テ ー マ
11月4日 (第3回)	南町二丁目	高齢化何するものぞ！！ 見守りから助け合いの輪
	新堀町	支え合い会議から生まれる、 ともに歩む支え合いのまちづくり
	田口町	聴覚障害者との交流 ～障害の有無を越え、 誰もが住みやすい田口町を目指して～
	下長磯町	サロンも買い物も公民館も、 みんなで作った「交流のある日常」
	大前田町	いつでも「ほっと」できる町カフェへの道

④ 交流・見守り活動への支援

ア ふれあい・いきいきサロンへの運営支援

ひとり暮らしや、日中ひとりで暮らしている高齢者、障がい児者、子育て中の親、ひとり親家庭等、地域との交流が十分に持てない方を対象に、自治会、地区社協、民生委員、保健推進員、老人クラブ、ボランティア等の協力を得ながら、気軽に立ち寄れる「地域の集いの場」を開設・運営するための支援を実施した。

高齢福祉課と連携した「ふれあい・いきいきサロン担い手研修」を開催し、サロンで実施できる脳トレや軽運動のレクチャーおよび参加者同士の意見交換会を実施した。
(市内活動実施状況)

区分	高齢者			子育て			障がい者			合計		
	継	新	全	継	新	全	継	新	全	継	新	全
交流事業 (サロン)	284	23	307	21	2	23	1	0	1	306	25	331
うち町社協実施数	-	-	171	-	-	-	-	-	-	-	-	-

イ 自治会を中心とした見守り活動への支援

地域の気になる人を対象に、日常からの見守りや声掛け・目配り・気配り等の安否確認を目的とした仕組みづくりを行う自治会に対して活動を支援した。

情報共有会議の開催・連絡網の作成・活動の周知広報も見守り活動の一つと位置付け、町社協の設立と関連付けながら各自治会へ地域福祉活動に取り組む提案を実施した。

(市内活動実施状況)

区分	合計
見守り事業	175
うち町社協実施数	129

ウ 「ふれあい・いきいきサロン」「見守り活動」「町社協」への助成
(地域福祉活動助成事業)

総額 18,764,240 円 (共同募金、市補助金、市社協賛助会費を財源)

⑤ 地区社協への支援

各地区担当者を中心として、地域福祉活動計画の推進の基礎となる 23 地区社協と連携した地域支援を実施した。

ア 地区社協会長会の運営支援

地区の現状や課題の検討、意見交換を行うために、市内を 6 ブロックに分けブロック別情報交換会を開催した。

(地区社協会長会議及びブロック別情報交換会の開催状況)

期 日	内 容	場 所
6 月 4 日 (第1回)	<p><総会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協会長会役員改選について ・令和 6 年度事業報告および会計報告・監査報告について ・令和 7 年度事業計画(案)および会計予算(案)について <p><第 1 回会議></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区社会福祉協議会 (地区社協) について ・地区社協の概要および活動報告 <ul style="list-style-type: none"> ① 岩神地区社協 「岩神カレー食堂」 ② 南橘地区社協 「ポッチャ体験会」 ③ 総社地区社協 「総社地区実務者交流会」 ・地域福祉活動計画について ・市社協会費の納入について ・令和 7 年度地区社協地域福祉活動助成金交付申請書の提出について ・その他 	K' BIXまえばし 福祉会館3階 第3会議室
9 月 8 日	<p>中央 - 1 ブロック (岩神 ・ 敷島 ・ 中部 ・ 文京)</p> <p><主な内容>企業や NPO 法人など多様な主体との連携</p>	K' BIXまえばし 福祉会館3階 第1作業室

9月 9日	中央-2ブロック (南部・若宮・城東・中川) ＜主な内容＞担い手不足への対応	K' BIXまえばし 福祉会館 第1作業室
9月 17日	東ブロック (大胡・宮城・粕川・桂萱) ＜主な内容＞活動のマンネリ化と担い手の固定化	にこっとかす かわ 交流室
9月 18日	西ブロック (東・元総社・総社・清里) ＜主な内容＞地区社協の役割 (町社協へのサポート体制等)	総社公民館 第3会議室
9月 22日	南ブロック (上川淵・下川淵・永明・城南) ＜主な内容＞地区内町社協の活動内容	上川淵公民館 会議室
9月 25日	北ブロック (富士見・芳賀・南橘) ＜主な話題＞団体間の連携	富士見公民館 第2会議室
2月 9日 (第2回)	＜議事＞ ・前橋市地区社会福祉協議会会長会 運営体制と役員を選任について ・規約の改正について ＜連絡事項＞ ・第3次前橋市地域福祉活動計画について ・令和7年度地区社会福祉協議会ブロック別情報交換会報告について ・町社協の活動状況について ・のびゆくこどものつどい・地区社協が進める交流事業について ・地区社会福祉協議会活動支援事業 (旧地区社会福祉協議会関係助成事業) について ＜その他＞ ・地区社協会長変更届について ・令和8年度 第1回会議について (予定)	K' BIXまえばし 福祉会館3階 第4会議室
2月 9日 (研修)	「少子高齢化が進行する時代における地域課題の現状や支えあいの考え方～地域資源をどのように活用していくか～」 講師：群馬医療福祉大学 教授 山口 智晴 氏	K' BIXまえばし 福祉会館3階 第2会議室

イ 地区社協活動への支援

研修会の開催や他団体との共催事業、企業、学生、NPO 法人等、多様な主体との協働事業など、各地区で工夫をしながら活動が行われた。

- ・地区社協地域福祉活動助成金 総額 4,478,950 円 (市社協会費を財源)
- ・地区社協関係助成事業 総額 7,091,000 円 (共同募金を財源)

(各地区活動状況)

○多くの地区に共通する活動

・企画運営会議・ふれあいの広場・各種団体への助成等

○各地区独自の活動

地区名	内 容
岩神	・カレー食堂・地域食堂・早朝ラジオ体操・ボッチャ大会
敷島	・ふれあい会食会・地区社協研修会・視察研修(水戸市社協)
若宮	・高齢者生活支援品配布事業・自治会長との意見交換および調理実習会 ・ふれあい給食活動事業・おやこの食育推進事業
城東	・ふれあい会食会・各町へ助成
中部	・地区社協研修会・地域×学生 つむぎフェス ・地域と学生の情報交換会
中川	・防災研修会・平和講演会・文化祭・各町へ助成
文京	・生きがい塾・アンケート調査実施 ・視察研修①(埼玉県草加市社協 新田東部地区社協 居場所「さかえーる」) ・視察研修②(神奈川県平塚市社協 真土地区社協)
南部	・地区社協地域福祉研修会・視察研修受け入れ(埼玉県春日部市)
上川淵	・ボッチャパネル展示講座・ポールウォーキング講座 ・小学校入学児童への記念品贈呈・脳トレ冊子発行・地区社協だより発行
下川淵	・ふれあい会食会・広報紙発行
芳賀	・各町へ助成・地区社協研修会
桂萱	・ふれあい会食会・視察研修(栃木県那須烏山市)・福祉講演会
東	・ふれあい会食会・健康講座(NPO 法人きなね)・ポールウォーキング講座
元総社	・ふれあい会食会・敬老訪問事業・広報紙発行
総社	・地区社協研修会・地域福祉活動実務者交流会
南橋	・町社協活動情報交換会・高齢者食事会・訪問事業・ボッチャ講習会&楽しむ会
清里	・地区社協研修会(情報交換会)・健康教室(ポールウォーキング・講座) ・敬老祝い品配布・ふれあい会食・研修会
永明	・視察研修(長野県上田市)・地域福祉活動実務者交流会(VR 認知症体験) ・地区社協研修会・各種団体代表者会議
城南	・ふれあい会食会・広報活動・支え合い活動
大胡	・ふれあい交流会・認知症ささえあい川柳・ふれあい福祉座談会 ・サロンリーダー研修会・ふれあいのまちづくり研修会・広報誌発行 ・ノスタルジクスコンサート
宮城	・ふれあい会食会・広報紙発行・小中学校入卒祝品贈呈・三世代まつり

	・認知症ささえあい川柳・地区社協研修会
粕川	・ふれあい会食会・広報紙発行・サロンへの助成支援・町社協助成金 ・地域福祉活動助成金・認知症ささえあい川柳
富士見	・ふれあいのまちづくり研修会・ひとり暮らし高齢者お買い物ツアー ・地区社協だより発行

ウ 地区別地域福祉活動計画の策定

23 地区において、企画運営会議等で地域の課題を整理しながら、目指す地域の将来像をまとめた地区別地域福祉活動計画を策定した。

⑥ 前橋市地域福祉活動計画の策定

第 3 次地域福祉活動計画（令和 8 年度から令和 12 年度）を策定した。策定にあたっては策定委員会を設置し、策定に向けた意見聴取を実施した。

（策定委員会開催状況）

日程	会議等	議題事項	出席者
令和 7 年 9 月～10 月	アンケート実施	令和 7 年 9 月 1 日 ～10 月 10 日	
令和 7 年 11 月 5 日	第 3 回前橋市地域福祉活動計画策定委員会	第 3 次前橋市地域福祉活動計画（素案）について	策定委員 7 人
令和 8 年 2 月 13 日	第 4 回前橋市地域福祉活動計画策定委員会	第 3 次前橋市地域福祉活動計画（素案）について	策定委員 7 人
令和 8 年 3 月 10 日 3 月 24 日	本会理事会、評議員会	本会 理事会、評議員会での承認	

⑦ その他の事業

ア 地域福祉年末年始配分事業

地域で子どもを支援する団体に、明るく新年を迎えてもらえるよう年末年始に行う行事に係る費用に対し一部補助した。地域歳末たすけあい募金を原資として、子ども食堂 17 か所に 850,000 円を配分した。

イ 安心カード事業

加齢や疾病、障がい、ひとり親などの理由により日常生活に不安を感じている世帯、その他希望する世帯に対し、いざという時の生命の安全確保につなげ、生活の安心感を高めてもらうことを目的とした「安心カード」を、善意銀行預託金を原資として配布した。自治会、民生委員、行政機関窓口、市内一部薬局、市内郵便局（46 局）、ケアマネジャー等専門職の協力を得て安心カードを配布した。

また、12 月を情報更新強化月間と位置づけ、更新を推進する取り組みを実施した。

民生委員による呼びかけや市内サービスセンター等の関係機関に協力を依頼し、チラシの配布やポスターの掲示を通して更新の呼びかけを実施した。

- ・平成 22 年度事業開始からの配布数累計 90,873 枚
- ・新様式配布数（平成30年度～） 52,866枚
- ・令和 7 年度配布数 2,745 枚

ウ 共同募金運動への協力

赤い羽根共同募金運動、地域歳末たすけあい運動に協力し、市民の善意を地域福祉事業に活用した。また、募金運動の一環として、10月25日群馬大学保健研究科のイベント、11月29日前橋市社会福祉大会でイベント募金を実施した。

エ 地域づくり事業との連携

市で進めている地域づくり事業の各地区福祉部会の活動を支援し、月に1度開催されている地域づくり連絡会に出席をした。地区社協と共催で研修会を実施するなど、各地区で工夫を凝らし実施する事業を支援した。

オ 戦没者追悼式の実施及び支援

9月20日K'BIXまえばし福祉会館2階多目的ホールで実施された市戦没者追悼式の開催を支援した。市高校生による「平和への誓い」を実施したほか、戦後80年を記念し平和展・障害者作品展を同会館インナースクエアにて9月1日から9月21日の期間で開催した。

また、地区戦没者追悼式を開催した桂萱地区社協、城南地区社協、宮城地区社協、粕川地区社協、富士見地区社協に対し、戦没者及び空爆犠牲者慰謝激励費を交付した。

カ 民間社会福祉関係団体の支援

- (ア) 前橋市民生委員児童委員連絡協議会
- (イ) 前橋市地区社会福祉協議会会長会
- (ウ) 前橋保護区保護司会
- (エ) 前橋地区更生保護女性会
- (オ) 遺族の会前橋市連合支部及び女性部
- (カ) 前橋市共同募金委員会

キ 移動支援試行事業

高齢化に伴い、サロン等の地域活動に参加したくても「移動手段がない」「送迎に不安がある」といった声が増えている現状を踏まえ、「送迎時の保険補償」および「社協公用車の貸し出し」を実施し、送迎者・利用者双方の安心の確保と地域活動への参加促進を図った。これまでに送迎活動を行ってきた町社協や自治会を主な対象として試行実施した。利用者へのアンケート調査を行い、活用事例の把握と課題整理を実施した。

(令和7年度実績)

	登録者（人）	活動件数（件）
送迎時の保険補償	48	116
	利用件数（件）	

社協公用車貸し出し	53
-----------	----

(2) ボランティアセンター事業

① ボランティア総合支援事業

ア ボランティア活動コーディネート

(ア) ボランティア相談

内容	件数
① ボランティア活動登録相談	9件
② 依頼相談	8件
③ 生活支援相談	34件
④ その他の相談	63件
合計	114件

(イ) ボランティア登録

ボランティア活動を希望する個人や団体に登録してもらうことで、情報提供やコーディネートをを行い、ボランティア活動の推進を図った。

団体登録	芸能グループ	個人登録
50団体	70グループ	131人

(ウ) 芸能ボランティア活動紹介

	合計
活動件数	348件

イ ボランティア活動保険の加入促進

ボランティア活動保険	322団体、5,905人
ボランティア行事用保険	121件
福祉サービス総合補償	15件
送迎サービス補償	1件

ウ ボランティア情報発信

(ア) ホームページ・SNSの活用

ボランティアの募集や活動状況等をタイムリーに発信した。

(イ) 公式LINEを開設し、登録者に対しボランティア活動に関する情報やイベント情報をタイムリーに発信、また活動中の写真などを共有する事で、ボランティア活動の活性化に繋がった。

② 福祉教育・人材育成推進事業

ア 学校・団体・企業等の福祉教育活動への支援

小学校、中学校、大学・専門学校等及び関係機関での福祉教育活動を、障がい当事者延べ13人や民生委員、登録ボランティア延べ45人の協力を得て実施した。

実施先種別	
小学校	31校

中学校	3校
高校	1校
専門学校・大学	1校
企業・団体	5カ所
その他	1カ所
内 容	回 数
視覚障がい者講話	10回
車いすユーザー講話	4回
福祉講話	22回
車いす体験	31回
高齢者疑似体験	20回
点字体験	9回
ブラインドウォーク	7回

イ 親子でクワガタ・カブト飼育講座（視覚障がい者の講師等による）
（年度内の開催11回 参加者数；前期14組、後期15組、計29組）

ウ 福祉教育機材貸出

	車イス	点字練習機	アイマスク	高齢者疑似装具	その他
貸出数	90	128	46	48	22

エ 「ぶらりバリアフリー散歩」の開催

障がいのある人もない人も一緒に散策をしながら、心のバリアフリーを実現するためのイベントを11月と3月に開催した。実行委員には当事者グループやボランティア団体など多くの人に関わり企画した。参加者（11月45人、3月65人）は前橋中心商店街とその周辺を散策しながら街のバリアフリーや不便なところを見つけ、組合加盟店を中心に本イベントと補助犬に関する啓発シールを配布した。イベント最後にはグループでの意見交換、発表を行い参加者同士が相互理解を深める機会となった。

オ 登録ボランティア研修会

ボランティアセンターへ登録しているボランティアのスキルアップを目的として開催した。

肢体・聴覚・視覚障がい当事者の体験談を聞き、参加者同士が意見交換を行い支援の心得やバリアフリーなどについて考える機会を提供した。

カ 共生社会講話

共生社会への理解を深めることを目的に、2人の講師を迎え「もっと知ってほしい視覚障害のこと」開催し市民約100人が参加した。前半は講師の日常生活の様子や生活をする上での工夫や盲導犬と暮らすことについて紹介。参加者は身近な視点から理

解を深めることができた。

後半には盲導犬のデモンストレーションに加え、実際に誘導を体験するプログラムも実施し、視覚に障がいのある方への声かけやサポート方法を具体的に学ぶことで、誰もが安心して暮らせる地域づくりについて考える良いきっかけとなった。

キ 教員向け福祉教育研修

学校における福祉教育の理解を深めることを目的に、教員を対象とした福祉教育研修を実施し、小中学校の教員8人が参加した。福祉教育の考え方や進め方について情報交換をおこない、車いす体験、高齢者疑似体験、ブラインドウォークを通して、日常生活の中での不便さや支援の大切さを実感する機会となった。この研修を通して、児童・生徒が相手の立場に立って考える学びの大切さを共有することができた。

③ 福祉団体・企業社会貢献活動支援

ア 前橋市ボランティア団体連絡協議会

市内ボランティア団体活動の活性化を目的として組織された協議会の事務局として、協議会活動を支援した（令和7年度末、50団体）。

- ・総会を6月7日(土)に開催し、総会後に研修を実施した。
- ・役員会を年8回対面で開催した。
- ・いわき市復興支援バスツアー、救命研修、交流会を実施した。
- ・広報誌「V連だより」60号を発行した。

イ 共同募金の団体配分と活動団体支援

地域福祉活動に取り組むNPO法人や任意団体に対して共同募金の配分を実施した。

- ・令和7年度配分申請受付19件、22事業

ウ 子ども食堂等運営団体の情報収集やコーディネート

- ・市内約30か所の子ども食堂や子どもの居場所の活動実態の情報を収集し、本会ホームページに掲載した。
- ・「夏休み子ども食堂～まえばし～」に実行委員とともに開催し、社協内のスペースにて4回実施した。
- ・「子ども食堂フェスタ～まえばし～」を実行委員とともに開催し、市内の子ども食堂の周知を実施した。

④ 住民参加型在宅福祉サービス事業

「前橋ふれあいクラブ」として、地域包括支援センターへ事業説明を実施した。また、活動会員の情報交換会を実施し活動会員同士の交流を図り、活動状況の把握を実施した。

活動件数（件）	526件
延活動時間数（時間）	760時間
活動会員数（人）	41人

利用会員数（人）	57人
----------	-----

⑤ 災害等準備事業

ア 災害ボランティアセンター設置・運営及び訓練

大規模地震を想定し、停電や通信不安定な状況下において、発災時間帯の違いによる状況の変化を踏まえ、各所属の立場から初動対応、職員参集の課題、業務継続の工夫、関係機関との連携について検討した。また、K' BIX まえばし福祉会館 2 階多目的ホールを会場に、300 人のボランティア来場を想定した災害ボランティアセンターのレイアウトや動線を検討するとともに、実際に会場内で設置作業を行いながら運営方法を確認した。

イ 研修等への参加

県内中部地区資機材プラットフォーム連絡会議において、地区内の吉岡町の被災を想定した、共有資機材の搬出訓練を実施した。その際、令和 6 年度に協定を締結したダイハツ自動車の軽トラック 2 台を搬出訓練で借用した。

⑥ 善意銀行配分事業

市民からの善意に基づく金品の預託を受け、地域福祉事業や市内の福祉施設・団体や援助を必要とする人などへ配分した。

(預託金)

	一般寄付金	指定寄付金	雑収入	合計
預託金件数（件）	20	13	3	36
預託金金額（円）	1,174,415	508,555	73,265	1,756,235

地域福祉事業（7事業）へ3,543,000円を配分し、硬貨入金手数料など必要経費35,045円を支出した。指定寄付金は寄付者の希望通り配分した。預託金合計額は29,768,874円となった。

(預託物品)

生活用品等 70 件の預託品があり、市内社会福祉施設・団体や援助を必要とする人などへ配布した。預託品のアルミ缶プルトップは換金し、地域福祉事業に活用した。入れ歯回収ボックスを市内老人福祉センター5ヶ所、みやぎふれあいの郷、K' BIX まえばし福祉会館、ボランティアセンターに設置した。

⑦ 介護予防活動ポイント制度事業

市からの委託を受けて、介護予防活動ポイント制度のうち、施設活動希望者の登録説明・研修会を実施し、研修修了者の登録を行うとともに活動に関する相談に応じた。

ア 登録研修会

開催回数 10 回 参加者数 48 人 登録者数 40 人 延べ登録者数 468 人

イ 登録者向け研修会

開催回数 2 回 参加者数：計 75 人

実施日：令和 7 年 11 月 5 日・12 日

内 容：「公共交通に乗って出かけてみませんか？」

「めぶく Pay アプリ登録講習」

⑧ 聴覚障がい者のための意思疎通支援事業

市からの委託事業である「手話通訳設置事業」「手話通訳者派遣事業」「要約筆記者派遣事業」を通して、聴覚障がい者の意思疎通支援を実施した。

また前橋市聴覚障害者福祉協会の行事や手話教室などの協力を実施した。

ア 手話通訳設置事業

聴覚障がい者の社会生活全般のコミュニケーションを円滑にするため、手話通訳者3人を設置して事業推進を実施した。

(活動状況) (件)

通 訳	電話通訳	相 談	連絡打合せ	その他	合 計
54	40	146	2,981	104	3,325

(活動状況の内容別件数) (件)

公的 機関	医療 機関	教育 保育	職業 資格	大 会 会議等	団体 活動	生 活 その他	コーディ ネート	合 計
163	27	1	24	2	167	199	2,742	3,325

イ 手話通訳者派遣事業

聴覚障がい者の社会生活上の意志疎通を円滑にするため、手話通訳者(登録42人)を派遣した。

(派遣状況) (件)

公的 機関	医療 機関	教育 保育	職業 資格	大会 会議等	団体 活動	その他	合 計
46	270	25	36	62	11	43	493

ウ 要約筆記者派遣事業

聴覚障がい者の社会生活上の意思疎通を円滑にするため、要約筆記者(登録35人)を派遣した。

(派遣状況) (件)

公的 機関	医療 機関	教育 保育	職業 資格	大会 会議等	団体 活動	その他	合 計
4	0	0	0	22	0	0	26

⑨ その他の事業

ア 車いす短期貸出事業

	延利用件数 (件)
ボランティアセンター	295
大胡支所	29
宮城支所	8
粕川支所	10

富士見支所	56
合計	398

イ 福祉車両貸出事業

	利用者数（人）	延利用件数（件）
ボランティアセンター	361	564
大胡支所	27	97
宮城支所	33	65
富士見支所	32	136
合計	453	862

ウ おもちやの図書館運営事業

善意銀行預託金を原資として、発達の遅れや障がいのある子どもたちが、おもちやを通して楽しく遊び、ボランティアや友だちとの交流が成長発達の一助となることを目的として運営した。毎月2回（正月は除く）の通常開館のうち7月と12月にイベントを行い、多くのご家族にご利用いただいた。登録ボランティアの活動や群馬医療福祉大学生徒のサービ斯拉ーニングの受け入れを実施した。

場所	K' BIX まえばし福祉会館 1 階
開館日、場所	第 1・3 土曜日 午後 1 時 30 分～4 時
開館回数	23 回
利用者数	利用児童数延べ 199 人 ボランティア数 108 人

(3) 児童クラブの運営

市からの委託を受け、おおご、おおごひがし、みやぎ及びかすかわ児童クラブを運営した。各クラブの特性を活かしながら、統一した保育が行えるよう、事務担当連絡会議、主任支援員会議を行い、児童と保護者が安心して利用できるよう環境を整備した。

(月平均利用者数)

(人)

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
おおご	14	10	8	3	1	0	36
おおごひがし	19	16	11	14	1	0	61
みやぎ	21	10	13	7	7	0	58
かすかわ	9	13	12	8	9	3	54
合計	63	49	44	32	18	3	209

① 安全・安心な保育の提供

ア 保護者アンケートの継続実施と連携強化

アンケートを10月に実施、11月に集計結果を保護者へ報告した。意見要望等については連絡会議で職員が共有し、クラブごとに改善した。

イ 各小学校との情報交換会の実施

各小学校の教頭を通じて、年間を通して常に連携した。

ウ 火災・地震等を想定した避難訓練の実施

各クラブにて、危機管理マニュアルに沿って年2回避難訓練を実施した。

エ 緊急メールシステムの活用

インフルエンザ流行時に、各クラブの対応を保護者に送信し、いち早く情報を伝達するとともに、平時より各クラブのお便りや保護者アンケートの案内などで活用した。

② 豊かで健やかな育ちの支援

ア 学校や関係機関とのネットワーク構築

各小学校主催の関係機関会議に参加して情報交換を実施した。

イ 子育て相談の充実

主任支援員を中心に随時、保護者から相談を受け、相談内容と回答を他の支援員と共有し、保護者の不安解消を実施した。

③ 職員の資質向上

ア 自主勉強会・研修会への参加促進

内部研修(救急救命、障がい児保育、接遇、虐待防止)を開催した。県主催の外部研修に参加した。

イ 放課後児童支援員認定資格取得の促進

受講資格のある職員2人が参加し、取得職員数は4クラブで合計33人となった。

(4) K' BIX まえばし福祉会館・第四コミュニティセンターの管理運営 *公益事業区分

前橋市より指定管理者として指定を受け、K' BIX まえばし福祉会館・第四コミュニティセンターを管理運営した。

① 利用状況

(人)

区分	年間利用者	月平均	1日平均
貸し部屋利用者	127,571	10,630.9	369.7
水治療法室利用者	5,305	442.1	21.9
合計	132,876	11,073.0	391.6

※開館日数345日

※水治療法室開室日数242日

② 社会教育事業

社会教育事業として、下記の取り組みを実施した。

ア 初めての子育て講座「ベビープログラム」の開催

中央公民館との協働講座として、2カ月～5カ月児の第一子とその母親を対象とした、子育て講座を開催し17組の参加が得られた。

イ インナースクエアコンサートの開催

(ア) 元群馬交響楽団員2人による、ビオラ、バイオリン、ピアノのコンサートを実施した。

(イ) ボランティア登録団体でもある、美音重(ミネージュ)と心音♪奏音(ココネ♪ソウネ)により、トーンチャイムコンサートを実施した。

ウ 「音楽物語」の開催

元群馬交響楽団員等 3 人による、ピアノとビオラ、バイオリンの生演奏と紙芝居を組み合わせた「音楽物語」を K' BIX まえばし福祉会館多目的ホールで開催した。市内の福祉施設利用者及び職員と、一般の方あわせて約 290 人が参加した。

エ 「親子でクワガタ・カブト飼育講座」の開催

ボランティアセンター共催事業として、親子で命や自然について考えるクワガタ・カブト飼育講座を開催した。

オ 「救急救命講座」の開催

会館の利用団体会員を対象に、救急車が到着するまでの対処方法や AED の使用方法などの講座を開催した。12 人が参加した。

カ 児童生徒人権標語作品の展示

城東小学校、若宮小学校、みずき中学校児童生徒の人権標語作品を、K' BIX まえばし福祉会館南玄関付近に 15 作品を展示した。

キ 絵画、写真等作品の展示

K' BIX まえばし福祉会館利用団体等が作成した作品を館内の壁面及びエレベーター前に展示した。

ク 遊具等の設置

インナースクエアに遊具、マグネットコーナーを設置し、親子に活用いただいた。

3 生活支援課 「生活支援に向けた相談支援体制の整備」

地域の支援者や相談機関、行政等と協働し、必要なサービスが受けられるよう訪問活動を通じて事業の周知を図り、市民が生活課題を気軽に相談することで、支援につながり解決できるような寄り添った支援ができる相談支援体制を整備した。

(1) 身近な相談窓口の充実

① 心配ごと相談所事業

善意銀行預託金を原資として、K' BIX まえばし福祉会館の相談室において、学識経験者等 16 人が相談員となり、毎週月曜日から金曜日に開設した（午後 1 時～4 時）。

出張相談を、市社協大胡支所にて奇数月第 4 水曜日（予約制）、老人福祉センター（おおとも、しきしま、ひろせ）にて輪番で毎月最終木曜日に実施した。

（内容別相談件数） 相談取扱件数 437件 開所日数239日

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
相談事項	生計	年金	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・保健・衛生	医療	人権・法律	相続・財産	事故	児童福祉・母子保健	教育・青少年	障がい者福祉	母子・父子福祉	高齢福祉	苦情	その他	合計
件数	28	1	11	27	57	5	35	12	20	18	41	6	0	2	4	0	15	9	146	437

※相談事項欄は、相談1件で、複数の相談内容を含む。

ア 相談員に対する研修の充実

「まえばし生活自立相談センターについて」と「精神障害の理解について」をテーマに研修会を2回実施した。

イ 相談員とのミーティングの開催

円滑な相談所運営を行うために年 2 回実施した。

ウ 専門機関との連携強化

相談内容に応じて相談者を他機関に紹介し相談機能を充実するため、専門機関との連携を図った。

② 相談窓口の充実

本所、各支所及び各老人福祉センター等において、身近な相談窓口として来館者の相談に対応した。また、必要に応じて民生委員児童委員や専門機関との連携を図った。

(2) 権利擁護体制の確立

① 日常生活自立支援事業

群馬県社会福祉協議会からの委託を受け、認知症高齢者等に対して、福祉サービス

の利用援助や日常的金銭管理、書類などの預かりサービスの支援を行うとともに、利用者の成年後見制度への移行や制度の利用に係る連絡調整を実施した。

また、事務手続きの確認体制の強化に重点を置き、事故防止を実施した。

ア 事業の運営状況（事業対象地域 前橋市）

（相談件数）

（件）

相談形態別		相談分野別		相談内容別	
訪問相談	924	認知症高齢者	1,957	問い合わせ	279
電話相談	6,640	知的障がい者	3,228	新規相談	221
来所相談	779	精神障がい者	3,136	継続相談	7,843
その他	0	身体障がい者他	22	その他	0
合計	8,343	合計	8,343	合計	8,343

（契約件数）

（件）

		新規契約	継続	計
内 訳	認知症高齢者	8	35	43
	知的障がい者	1	45	46
	精神障がい者	15	52	67
	寝たきりの高齢者	0	0	0
	合計	24	132	156

（終了件数）

（件）

理 由	死亡	15
	成年後見への移行	7
	施設入所	8
	本人の申し出	11
	親族管理	5
	再契約等その他	5
	合計	51

生活支援員の養成

講座名	開催日	参加人数
生活支援員研修会	3月10日	35人

② あんしんサポートまえばし（成年後見制度利用促進事業）

市からの委託を受け、地域連携ネットワークのコーディネーター役となる中核機関「あんしんサポートまえばし」の運営を行い、成年後見制度に関する支援機関として相談窓口を設置し広く周知啓発等を行い、前橋市における成年後見制度の利用促進を実施した。

ア 相談窓口の設置（一般相談）

相談内容	件数（件）
成年後見制度説明	62
制度利用の必要性について	13

成年後見制度申立について	89
後見人等選任について	0
後見人等の職務について	0
任意後見制度について	9
申立書類の書き方について	3
身元保証に関する相談	0
将来への不安・死後事務について	6
親亡き後について	1
その他	22
合 計	205

イ 相談窓口の設置（専門相談）

月 3 回の相談日を設け、福祉、司法等の専門職を配置する来所型相談と、地域包括支援センターや障害者相談支援事業所が開催する個別支援会議において相談員の派遣を行う訪問型相談を実施した。

- ・来所型 第 2 水曜日：司法書士 第 3 土曜日：社会福祉士 第 4 木曜日：弁護士
午前 10 時から 12 時まで実施。9 回開催、相談案件 10 件
- ・訪問型 5 回派遣

ウ 周知啓発

成年後見セミナーの開催

- ・成年後見制度について、正しい理解と利用促進を図る機会とすることを目的として開催した。開催にあたっては、市民、民生委員・児童委員、福祉・医療関係者、金融機関職員等を対象に幅広く周知を実施した。

開催日	内容	参加人数
9 月 18 日	成年後見制度について知ろう ～将来への不安を安心にかえるために～	130 人

支援者向け研修会の実施

市民からの様々な生活上の相談に対応する支援者を対象とし、成年後見制度の理解をより深め日々の支援に活かすことを目的に開催した。

開催日	内容	参加人数
12 月 18 日	権利擁護実践講座	47 人
2 月 13 日	意思決定支援研修会 (市民後見人フォローアップ研修と兼ねて実施)	38 人 (うち 8 人は市民後見人)

出前講座の実施

地域の会議等へ出向き、市民や支援者に対し、制度説明や中核機関の役割について説明を実施した。

エ 利用促進

成年後見制度の利用が見込まれる方について、専門職を交え、支援方針の決定、

市長申立の適否について協議する方針決定会議を開催した。

開催日	協議件数 (件)
4月 9日	0
6月11日	0
8月21日	0
10月 9日	0
12月10日	1
2月 9日	2

オ 市民後見人の養成及び支援

市民後見人養成講座修了者19人を対象に、資質向上を図るとともにモチベーションの維持、修了者同士の情報交換・交流を目的とした研修会や、地域において広く権利擁護の担い手として活躍できるようにするための支援を実施した。

- ・日常生活自立支援事業生活支援員へのつなぎ 5人
- ・フォローアップ研修の実施

開催日	内容	参加人数
11月27日	障害者に対する支援について知ろう	10人
2月13日	意思決定支援研修会 (支援者向け研修会と兼ねて実施)	8人

カ 関係機関との連携

行政関係課、家庭裁判所、三士会等成年後見制度の相談窓口をもつ機関と定期的に意見交換、情報交換を行うことで連携体制を構築した。

- ・協議会の実施

既存の地域ケア推進会議、障害者虐待防止・差別解消ネットワーク会議を協議会とし、本事業に関する計画や状況の報告を実施した。

(3) 高齢者の総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援

①地域包括支援センター東部 *公益事業区分

市からの委託を受け、大胡、宮城、粕川地区を対象とする「前橋市地域包括支援センター東部」を運営した。

ア 総合相談支援事業

高齢者に関するさまざまな相談を受け、適切な機関・制度・サービスにつないだ。

相談形態 (件)	訪問相談	342	相談内容 (件)	介護相談	813
	電話相談	1,377		介護保険サービス	454
	来所相談	199		新総合事業	1
	その他	42		保健・福祉サービス	20
				ケアマネジメント	94
				権利擁護	144
				その他	434

	合 計	1,960		合 計	1,960
--	-----	-------	--	-----	-------

イ 権利擁護業務

高齢者の人権・権利を守ることを目的に、高齢者虐待の早期発見・対応を心がけ、市社協関係課や警察等様々な機関と連携し援助した。

1 高齢者虐待への対応件数		41
(うち、虐待ケース会議開催件数4)		
内 訳	身体的虐待	6
	経済的虐待	0
	精神的虐待	21
	介護放棄	14
2 その他		0

ウ 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

介護支援専門員からのケース相談に応じ、また、介護支援専門員を対象とした事業を実施し、介護支援専門員を支援した。

- ・相談件数 80件
- ・情報交換会（圏域内）
- ・主任ケアマネ情報交換会（東ブロック）
- ・高齢者虐待研修会（市内全域事業）

エ 介護予防ケアマネジメント事業

総合事業のサービス希望者に対して、基本チェックリストを実施し、該当者に対して介護予防及び日常生活支援を目的として、その心身の状況、置かれている環境その他の状況に応じて、前橋市の定める訪問型サービス、通所型サービス、その他の生活支援サービス等適切なサービスが包括的かつ効果的に提供されるように援助を実施した。

オ 地域ケア会議の開催

地域ケア会議を開催するなど地域包括ケアシステムの推進を実施した。

(地域ケア会議開催状況)

会議名	内容	出席者	実施回数
調整会議	活動内容の情報共有と支援について	地域の代表者等	3回
実務担当者会議	悪質商法や詐欺被害について学び被害防止のための意見交換	地域の実務担当者	1回
自立支援型地域ケア個別会議	個別事例をとおして多職種からの専門的な助言を得て高齢者の生活	ケースの関係者、専門職	1回

	行為の課題等明確化		
--	-----------	--	--

カ 生活支援体制整備事業

地域資源に関する情報の把握と整理、活動の推進を図るため行政と連携を図った。

キ 介護予防支援事業

月別利用者数 (人)

月	包括	委託事業所	合計
4	276	122	398
5	271	124	395
6	283	121	404
7	280	127	407
8	273	125	398
9	274	125	399
10	280	127	407
11	281	130	411
12	278	126	404
1	282	129	411
2	274	127	401
3	278	125	403
合計	3,330	1,508	4,838

(4) 生活困窮者の自立相談支援の充実

① 生活困窮者自立相談支援・家計改善支援事業 * 公益事業区分を含む

市からの委託を受け、生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援機関として「まえばし生活自立相談センター」を運営した。

自立相談支援の一環として就労支援を実施し、無料職業紹介事業を行うことで就労支援の充実を実施した。

- ア 自立相談支援 新規相談受付件数 606 件
うち、支援同意件数 132 件
- イ 支援プラン作成数 新規89件・継続37件
- ウ 相談支援回数（延べ回数） 4,582回
- エ 家計支援プラン件数 16 件
- オ 関係機関、地域住民への継続した事業周知

各関係機関への個別訪問などでチラシを配布し、地域住民に対しての事業周知の協力を依頼した。

カ まえばしフードバンク事業相談窓口業務

生活困窮者（生活保護受給者を除く）のうち食糧支援が必要な相談者に対して申請を支援した。 申請件数 835 件

キ 関係機関との連携

生活保護初回相談への同席や民生委員児童委員の定例会などに出席し、事業説明を実施することで、センターの役割について周知した。また利用者情報の共有により支援効果を高められるようにチャレンジセンターまえばしと定期的な合同会議を開催した。

② 生活福祉資金貸付事業

群馬県社会福祉協議会からの委託を受け、民生委員の協力体制のもとに、低所得世帯及び高齢者又は障がい児者等のいる世帯に対し資金の貸付事業を行い、生活の安定向上を支援した。

(貸付状況)

資金種別		件数	貸付金額(円)
総合支援資金	生活支援費	0	0
	住居入居費	0	0
	一時生活再建費	0	0
福祉資金	福祉費	18	1,430,000
	緊急小口(含、生保つなぎ貸付)	8	160,000
	生活復興支援資金	0	0
教育支援資金	就学支度費・教育支援費	4	4,968,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	1	4,641,000
臨時特例つなぎ資金		0	0
合計		31	11,199,000

③ 生活困窮者食料等配付事業

まえばし生活自立相談センターに相談に来た市民に対し、善意銀行を原資として、フードバンクまえばしでは対応できないニーズに対し、フードバンクの上限期間を超えて食料支援を必要とする相談者への食料支援や、ライフラインの停止による卓上ガスコンロなどの調理器具、乳幼児がいる世帯への粉ミルクや離乳食、紙おむつなど、14件(実件数)の支援を実施した。

品目	延べ件数(件)	品目	延べ件数(件)	品目	延べ件数(件)
食料品	13	おしりふき	0	茶碗	0
粉ミルク	0	カセットコンロ	1	汁椀	0
離乳食	0	ガスボンベ	2	電気ケトル	0
紙おむつ	0	片手鍋	0	電気ポット	0

④ 生活困窮者就活等サポート事業

一時的に生活困窮状態であるが就労活動を希望している者に対し、他からの支援が望めず経費の工面が出来ないと課題解決できない場合に、善意銀行預託金を原資として、緊急的に必要となる、テレホンカード、住民票取得費用、履歴書用写真費用、履

履歴用紙、乗車券費用などを給付する就労活動の支援をしている。1件支援した。

⑤ 一時生活支援事業（居住支援）

自立相談支援事業に「住まい・入居後の生活支援の相談」に対応することが明確化され、居住支援協議会のハブ機能を担うことになった。

(5) 就労先の拡充

相談者の掘り起こしのため、アウトリーチ事業として、関係機関等の訪問や就労先を開拓するため商工会議所や企業等を訪問するなど、連携先の開拓や連携を強化した。就労支援については、「しごと応援企業」登録を開始した。

4 介護事業課 「地域に根ざした利用者本位の在宅福祉サービスの実現」

高齢者や障がい者など支援を要する人が、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、職員の資質の向上を図り、質の高い介護サービスを提供した。

(1) 本会の介護サービス事業 *公益事業区分を含む

① 介護保険サービス（各事業の月別利用者数）

ア 居宅介護支援事業 (人)

月	利用者
4	148
5	143
6	149
7	149
8	145
9	139
10	142
11	140
12	138
1	136
2	123
3	118
合計	1,670

イ 訪問介護事業、介護予防訪問介護相当サービス事業 (人)

月	介護	予防
4	130	83
5	131	85
6	132	82
7	129	82
8	127	77
9	132	77
10	132	84
11	127	83
12	129	82
1	125	78
2	121	77
3	127	74
合計	1,542	964

ウ 地域密着型通所介護事業、介護予防通所介護相当サービス事業（人）

月	大胡いこいの家	
	介護	介護予防通所介護相当
4	21	19
5	19	16
合計	40	35

大胡いこいの家は令和7年6月1日から休所し6月30日付で事業を廃止した。

② 障害福祉サービス（月別利用者数）（人）

月	居宅介護事業
4	40
5	40
6	39
7	37
8	36
9	36
10	37
11	33
12	33
1	34
2	35
3	35
合計	435

③ 受託事業（各事業の月別利用者数）

ア 要介護認定等調査（人）

月	保険者	
	前橋市	前橋市外
4	1	0
5	0	1
6	1	1
7	1	3
8	1	1
9	1	1
10	1	1
11	1	0
12	1	1
1	1	0
2	1	0

月	保険者	
	前橋市	前橋市外
3	0	0
合計	10	9

イ 介護予防サービス計画作成 (人)

月	人数
4	24
5	26
6	26
7	27
8	26
9	25
10	26
11	24
12	22
1	21
2	19
3	18
合計	284

ウ 市受託事業

事業名	実利用者数(人)	延提供時間 または年間延訪問回数
移動支援事業	4	64.15時間
産後ヘルパー派遣事業	14	147回
ヤングケアラー訪問支援事業	1	93回

④ 低所得者対策の実施

社会福祉法人等による利用者負担軽減事業を実施し、低所得者に対する利用料の軽減を実施している。今年度においては、当該事業の利用実績はなかった。

⑤ 福祉に携わる人材養成のための訪問介護実習の受け入れ

同行訪問実習 1人

ケアマネ実務研修 1人

(2) 利用者の自立支援と問題解決のための取組

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、本会の他部署や各関係機関と連携を図り、本会としての特徴を活かした支援を実施した。

①既存サービスの充実と連携

ア 課内会議にて各事業との協議

生活支援課と合同課内会議を開催し、個別支援と生活支援の情報共有を図り、サー

ビスの質の向上について検討した。

イ 本会他部署の職員との連携

制度だけでは解決できないケースに対し、地域福祉課及び生活支援課等と連携を図り、本会の総合力による支援を実施した。

②個々の支援のための事業連携・開発

介護保険制度以外で在宅生活を支えるため、訪問介護の自主サービス（生活援助・身体介護・通院介助）を、延 73 人の利用者に 335 回実施した。

医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるために、他機関と連携を図った。

(3) 安定した事業運営

安定した経営を実現するため、経営改善、経営方針を協議、検討するとともに、事業所内研修を実施し職員の資質向上を図り、信頼される事業運営を目指した。

① 適切な事業運営

ア 介護サービスの経営実態及び課題把握、改善

課内会議において、毎月の利用者数状況及び収支状況を確認し改善策を検討した。

イ 虐待防止、身体拘束適正化

虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を開催した。

ウ 事業継続計画（BCP）

事業継続計画に即し、本会の他部署と協同し、安否確認システムの訓練を定期的に変更した。

エ 感染症の予防、まん延防止

感染症対策委員会を開催した。

② 地域に根ざした事業運営

「介護を主とする地域住民の相談窓口の充実」を図り、地域住民や本会の他部署からの相談に対応した。

(4) 職員の人材確保及び資質の向上

魅力ある職場環境を整えるとともに、個別研修計画を作成し、職員の資質向上を図った。

① 研修の充実

ア 研修体系と研修計画の作成及び実施

発展・強化計画に「介護事業における対人援助力及び介護技術力の向上」を実施項目に掲げ、研修を実施した。

内 容	開催日・研修方法
【居宅介護支援】福祉用具	4月23日（体験）
【居宅介護支援】他事業所との事例検討会 （5事業所）	10月9日
【居宅介護支援】事例検討会（事業所内）	2月12日
【訪問介護】チームワーク	4月22日・23日
【訪問介護】ボディメカニクス（技術）	11月19日・20日

【訪問介護】腰痛予防	2月24日・7日
【全体】感染症予防・まん延防止	9月16日・17日（研修） 10月28日・29日（訓練）
【全体】虐待防止・身体拘束適正化	11月25日・26日
【全体】事業継続計画	10月9日・22日（研修） 4月18日・5月19日・6月18日（訓練）
【訪問】【通所】ヒヤリハット案件、利用者からの苦情（個別OJT、全体共有）	随時

② 介護従事者の確保

ア 職場環境の整備

各介護事業所の職員不足を補うため、事業所間で職員が協力できる体制をとった。

イ 求人方法の検討、実施

求人用のポスターの掲示や社協だよりにより職員募集記事を掲載し、職員募集のPRを図った。

ウ 就職希望者及び従事者に対する資格取得補助 (人)

資格・研修名	就職希望者	従事者
介護職員初任者研修課程	0	0
介護福祉士実務対象者研修	0	3
介護福祉士受験料	0	2

エ 介護支援専門員未経験者研修・更新研修の研修費補助（他係職員対象）

未経験者研修 1人 更新研修Ⅱ 1人

5 高齢福祉課 「高齢者の健康な暮らしづくりの提供」

指定管理者として管理運営する5カ所の老人福祉センター及びみやぎふれあいの郷では、健康維持・増進事業や生涯学習事業を通して、高齢者の孤独・孤立の防止や生きがいづくり、健康寿命延伸のための介護予防の拠点となり、また利用者が安心して暮らせるように、関係機関との連携を強化し、困りごとへの相談支援体制づくりや災害時に備えた。

(1) 利用状況

① しきしま老人福祉センター（開所日数 289 日） (人)

区 分	年間利用者	月平均	1日平均	割合(%)
市内個人	61,356	5,113	212.3	96.4
市内団体	993	83	3.4	1.6
市民以外	1,275	106	4.4	2.0
合 計	63,624	5,302	220.2	100.0

※日曜日、祝日及び年末年始は休所

② ひろせ老人福祉センター（開所日数288日） (人)

*福祉避難所開設訓練を実施したため、開館日数は1日減となっている

区 分	年間利用者数	月平均	1日平均	割合(%)
市内個人	52,974	4,415	183.9	99.3
市内団体	84	7	0.3	0.2
市民以外	247	20	0.9	0.5
合 計	53,305	4,442	185.1	100.0

※日曜日、祝日及び年末年始は休所

③ おおとも老人福祉センター（開所日数289日） (人)

区 分	年間利用者数	月平均	1日平均	割合(%)
市内個人	44,734	3,727	154.8	99.0
市内団体	0	0	0	0
市民以外	432	36	1.5	1.0
合 計	45,166	3,763	156.3	100.0

※日曜日、祝日及び年末年始は休所

④ かすかわ老人福祉センター（開所日数242日） (人)

区 分	年間利用者数	月平均	1日平均	割合(%)
市内個人	11,705	975	48.4	95.8
市内団体	0	0	0	0
市民以外	518	43	2.1	4.2

合 計	12,223	1,018	50.5	100.0
-----	--------	-------	------	-------

※土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休所

⑤ ふじみ老人福祉センター（開所日数242日） (人)

区 分	年間利用者数	月 平 均	1 日平均	割 合(%)
市内個人	15,971	1,331	66.0	99.3
市内団体	0	0	0	0.0
市民以外	119	10	0.5	0.7
合 計	16,090	1,341	66.5	100.0

※土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休所

⑥ みやぎふれあいの郷（開所日数290日） *収益事業区分 (人)

区 分	年間利用者数	月 平 均	1 日平均	割 合(%)
市内65歳以上 小学生未満	28,497	2,375	98.3	98.4
大人(高校生～64歳)	443	37	1.5	1.5
小人(中学生まで)	30	3	0.1	0.1
合 計	28,970	2,415	99.9	100.0

※日曜日、祝日及び年末年始は休所

(2) 健康づくり・介護予防の推進

保健師や看護師、健康運動指導士等の専門職を配置することで、利用者へのきめ細やかな体調管理を行い、健康づくり・介護予防の拠点としての役割を実施した。

① 健康維持・増進事業の実施

ア ピンシヤン元気体操のさらなる普及

各老人福祉センター、ふれあいの郷では毎日、介護予防体操「ピンシヤン元気体操」を実施した。

(実施状況) (人)

区 分	しきしま	ひろせ	おおとも	かすかわ	ふじみ	ふれあいの郷
延利用者数	22,616	18,718	15,924	3,426	5,416	6,587

② 健康相談の実施

保健師や看護師が血圧測定や健康に関する相談に応じ、適切な助言や支援に努めるとともに、体組成計を使った筋肉量等の測定を行い、健康づくりへの指導や情報提供を実施した。

(実施状況) (人)

区 分	しきしま	ひろせ	おおとも	かすかわ	ふじみ	ふれあいの郷
延利用者数	17,701	10,609	8,874	6,336	3,824	7,216

③ 機能訓練事業の実施

機能訓練室において、利用者の心身の機能維持、回復のため保健師や看護師、健康

運動指導士が助言や支援を実施した。また、市の理学療法士や作業療法士による機能訓練事業に連携協力し、継続的な指導や支援を実施した。

(実施状況)

(人)

区 分	しきしま	ひろせ	おおとも	かすかわ	ふじみ
延利用者数	16,334	13,659	11,085	3,509	9,810

④ 健康に関する教室の開催

ア 健康教室の開催

免疫力を高める食事、血圧と減塩、夏バテと熱中症、快眠等の健康教室、体力測定を年2回開催、チェアエクササイズ、歩き方講座、運動療法を行い健康づくりや介護予防の普及啓発を実施した。

(実施状況)

(人)

区 分	しきしま	ひろせ	おおとも	かすかわ	ふじみ	ふれあいの郷
延利用者数	533	474	342	219	348	382

イ 生きがい教室の開催

参加者同士のコミュニケーションを図りながら介護予防につなげる場として、生きがい教室を開催した。レクリエーションを中心とした体操や作品制作など、各所、特色のある取り組みを実施した。

(実施状況)

(人)

区 分	しきしま	ひろせ	おおとも	かすかわ	ふじみ	ふれあいの郷
延利用者数	118	118	137	87	116	94

ウ 「健康測定・相談会」の開催

昨年に引き続き「健康測定・相談会」を開催した。健康測定機器による測定を実施し、各所にて保健師・看護師・健康運動指導士が参加者の測定結果に対して助言を実施した。

エ 健康・あんしん手帳の配布

日々の血圧測定や健康状態の記録、緊急時の連絡先等を記入できる「健康・あんしん手帳」を、健康講話や健康測定・相談会、体力測定時に配布し、継続的に健康管理ができるよう活用した。

オ 市の介護予防普及啓発事業への協力

長寿包括ケア課が主催した、歩行姿勢や握力などを測定するフレイル予防のための測定会を各所で実施した。

長寿包括ケア課の歩行測定器を使用して測定会を各所で行い振り返りを実施した。

(3) 生きがいづくりの推進

交流の場を提供することにより、ひきこもりの防止や生きがいづくり活動の拠点としての役割を実施した。

① 生涯学習事業の充実

自主クラブの活動を支援するとともに、一日教室や健康教室等、プログラムの検討及び実施することで生涯学習事業を充実した。

② 交流事業の促進

地区担当職員等の協力を得ながら、ふれあい・いきいきサロン等に対し、老人福祉センター及びふれあいの郷の利用促進を図り、地域活動の拠点としての役割を担った。

(4) 安心で安全なサービスの提供

利用者の安全と安心を第一に、誰もが相談を受けられる体制づくり、施設・設備の適切な管理や清潔で快適な環境づくり、効率的かつ適切な施設運営を行い、サービスの質の確保とさらなる向上を実施した。

① 身近な相談窓口

老人福祉センター及びふれあいの郷を利用する高齢者の生活や健康に関する様々な心配ごとについて、看護師を中心とした専門的立場から相談に応じ、本会の各課や関係へ繋げた。

② 利用者の安全確保と防災意識の喚起

警察や前橋市と連携し、多発する高齢者の交通事故や振り込め詐欺について、交通事故防止、詐欺被害防止の注意喚起を実施した。

③ 施設・設備の適切な維持管理による安全な施設運営

施設及び設備の維持管理のため、日々点検を行い、適宜修繕及び整備等を実施した。

④ 移動販売・臨時売店の実施

ア 買い物が困難な利用者への支援（しきしま・ひろせ老人福祉センター）

商業施設が近隣になく買い物が困難な利用者に対し、企業と連携し移動販売車による買い物支援に取り組んだ。

イ 臨時売店によるサービス提供（老人福祉センター）

障がい者福祉施設や特別支援学校の自主製品（うどんや野菜、クッキー等）を販売する臨時売店を開設し、買い物支援に取り組むとともに、障がい者との交流の場づくりを実施した。

(5) 実習への協力と大学と連携した介護予防教室の開催

地域における老人福祉センターの役割や介護予防事業について実習指導を実施した。また大学と連携し、学生が企画した介護予防教室を開催した。

受入学校名	しきしま	ひろせ	おおとも
群馬大学医学部 保健学科看護学専攻	8グループ 80人	2グループ 10人	2グループ 10人
群馬県立県民健康 科学大学	8グループ 86人	4グループ 48人	
群馬医療福祉大学	理学療法専攻 7グループ 62人 作業療法専攻 2グループ 12人	理学療法専攻 2グループ 13人 作業療法専攻 2グループ 11人	理学療法専攻 2グループ 13人 作業療法専攻 2グループ 11人
前橋高等看護学院			7グループ 37人
前橋准看護学校	1グループ 12人	4グループ 15人	1グループ 14人

前橋東看護学校	1 グループ 12 人	1 グループ 18 人	
高崎健康福祉大学	4 グループ 41 人	4 グループ 42 人	2 グループ 26 人
群馬大学医学部 理学療法専攻	1 グループ 20 人		
群馬パース大学	2 グループ 6 人		2 グループ 6 人

受入学校名	かすかわ
前橋東高等看護学校	1 グループ 8 人

(6) 福祉避難所が開設できる体制づくり

実際に要支援者の受入を要請された場合に、迅速かつ効率的に福祉避難所を開設して避難者を受入れることができるよう、前橋市防災対策本部、所管課と協働し、想定される手順、役割分担、避難者の受入方法等の福祉避難所開設訓練をひろせ老人福祉センターにて実施した。

(7) シルバーハウジング事業の推進

市からの委託を受け、広瀬団地において高齢者世話付住宅（＝シルバーハウジング：SE棟 14 戸、UB棟 15 戸、UD棟 16 戸、UE棟 16 戸 計 61 戸）を管理運営し、生活援助員が入居者の生活相談、安否確認や緊急時の対応を実施し、高齢者が安心して快適に生活できるようにサポートした。

6 障害福祉課 「地域で暮らせる自立支援」

前橋市より指定管理者として指定を受け、5カ所の地域活動支援センター及び多機能型事業所こころ就労継続支援B型・生活介護を管理運営し、利用者の個々の特性に応じた対応や、家族の希望に合わせたサービスの提供に取り組み、自立支援を実施した。

特に、前橋市障害者サポートセンターこころについては、移転統合後2年目を迎え、各事業所の運営プログラムは定着しつつあり、ココルンサークルまえばし、地域住民や学生と協働したインクルーシブイベントへの参加など地域とのつながりを推進することができた。また、各事業所の定員を満たすため、市内特別支援学校、相談支援事業所と連携し、施設見学、新たな利用へ向けた実習の受け入れを実施した。

(1) 地域活動支援センター

区分	利用者定員	在籍利用者数	開所日数	延べ利用者数
こころ	20人	11人	242日	2,165人
おおご	20人	15人	242日	3,427人
みやぎ	10人	8人	242日	1,340人
かすかわ	10人	8人	242日	900人
ふじみ	12人	10人	242日	2,316人
合計	72人	52人		10,148人

(2) 多機能型事業所こころ

区分	利用者定員	在籍利用者数	開所日数(日)	延べ利用者数
就労継続支援B型	20人	15人	242日	3,288人
生活介護	20人	15人	242日	3,012人

(3) 特別支援学校等からの就業・施設体験などの受け入れ

特別支援学校の進路学習の一環である「就業体験」「施設体験」希望の生徒を地域活動支援センターおよび多機能型事業所で受け入れ、卒業後の進路を検討する一助としている。また、進路担当との連絡を密にし、次年度の実施に向けて調整を実施した。

地域活動支援センター

	こころ	おおご	みやぎ	かすかわ	ふじみ	合計
受入延べ日数(日)	6	5	8	5	7	31
受入人数(人)	2	1	2	1	3	9

多機能型事業所

	就労継続支援B型	生活介護	合計
受入延べ日数(日)	27	57	84
受入人数(人)	8	4	12

(4) 事業所提供サービスの質と量の向上

利用者個人の支援計画や各事業所の年間計画などに基づき、花見等の季節行事及び地域の行事への参加、買い物や外食等の生活訓練等を実施した。利用者が地域の中で様々な経験をすることで、社会生活の適応能力を少しでも向上させるとともに、各事業所を利用する楽しみとした。

① 重度化・高齢化・多様化への対応

面接やアンケートを実施し、利用者と家族が抱える問題を把握し、解決に向けた課題に取り組んだ。

家族の高齢化による介護力の低下に伴い、相談支援事業所と連携し、日中支援事業所及び短期入所の利用に繋げた。

② 日中活動・社会体験の支援（地域活動支援センター・就労継続支援 B 型）

ア 受注作業の情報収集

各センターの受注作業 10 社の情報を共有し、各センター間で受注作業を融通し合い、連携して対応した。

イ 地域行事への参加

社会交流の機会を提供する取り組みとして、前橋市手をつなぐ育成会主催事業への共催や前橋七夕まつり見学などの市内行事へ参加し、地域や企業とのつながりを深めた。特に企業とのつながりでは、大和ハウス工業やダンススタジオトリガーからの協力を得ることで、障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめるインクルーシブなイベントが実現した。

ウ アート活動への取り組み

「手をつなぐ作品展」や「まえばし平和展」への出展を実施したことで、利用者の作品を社会に発信し、多くの人に見てもらえる機会を創出した。また、前橋特別支援学校と合同により「中之条ビエンナーレ」への出展を実施した。

昨年度に続き、外部講師を招き、希望する利用者に対して、絵画教室、書道教室、陶芸教室を行い、利用者の余暇活動の充実を図った。

③ 将来の生活像を踏まえた支援（生活介護）

ア 将来に向けての情報収集と発信

個人面談やアンケートによって将来の希望等の聞き取り調査を実施した。希望する地域生活ができるよう障害福祉サービスの情報の提供を実施した。

イ 行事計画等の実施

利用者や保護者の希望に合わせた行事を実施し、社会に適応できるようボランティアとの交流の機会を増やした。

ウ 入浴サービスの実施

保護者の負担軽減などを目的に、希望者に応じた入浴サービスを実施した。

④ 利用者の安全確保のための取り組み

ア 虐待防止への取り組み

利用者の人権の擁護、虐待防止のため、虐待防止マニュアルのチェックリストの活用と全職員対象の研修を行い、虐待防止に取り組んだ。

イ 防犯防災対応への取り組み

不審者への対応及び防犯に対する意識を喚起するために、市防災危機管理課などから講師を招き訓練を実施した。また、消防訓練、避難訓練を定期的実施した。

(5) 本人・家族の自立支援の推進

日中の活動では生活能力の維持・向上のため、利用者一人ひとりの能力に応じて自分のことが自分でできるよう、活動内容を工夫しながら個別支援を実施した。

① 個別支援、家族支援の充実

ア 実態把握・サービス提供

面談やアンケートにて利用者や家族のニーズを把握し、支援計画書を作成した。

日中活動支援の中で個別モニタリングを実施した。

行動障がいを伴う利用者への個室対応、公共交通機関利用者の見送り等、事業所内外における安全な環境を整備した。

(6) 関係機関との連携

福祉サービス事業所等との連携を図り、利用者へのサービス提供に繋げるとともに、家族の負担軽減を実施した。